

サギソウにおける蜜量変化の解明

—蜜量変化から考える蜜の再吸収—

吉村瞬 山原朗裕 八十島琉斗

Syun YOSHIMURA, Akihiro YAMAHARA, Ryuto YASOSHIMA

奈良学園高等学校

【キーワード】 サギソウ、再吸収

1. はじめに

サギソウは日当たりの良い湿地に生息する多年生のラン科植物で、環境省レッドリストにも掲載されている準絶滅危惧種である。本校には、奈良県で三か所しか見つかっていないサギソウ自生群落の一つがあり、私たちはその群落で9年間研究を行っている。

2. 目的

去年までの研究で、サギソウが一度分泌した蜜を吸収する蜜の再吸収を行う可能性があることがわかった。そこで研究目標をサギソウの蜜と生活史の解明とし、再吸収が常に起こるかどうかが調べるため、実験を行った。

3. 方法

何もせずそのまま放置した実験花A、サギソウの蜜を貯める距の入口にワセリンを塗り蜜の蒸発を防いだ実験花B、ワセリンを塗らず実験花Bと同じ操作をして傷をつけた実験花Cの3種類の実験花を設置した。そして、それぞれのサギソウの距の底部にたまる蜜の蜜高を同じ定規を用いて、毎日朝（9時）に計測した。

4. 結果

実験花Bは実験開始直後は、蜜の増加、開花期中盤以降には蜜の減少が確認された。つまり、蒸発以外で蜜の減少が起こったため、サギソウは蜜の再吸収を行っているかもしれないことが分かった。また、実験花A、実験花Bで開花期間、蜜量推移に差異があまりみられなかったため、ワセリンがサギソウに及ぼしている影響は薄いと考えた。

5. 考察

三つの実験花のうち、実験花A、実験花Bでは大きな差異が見られなかったためワセリンがサギソウに及ぼしている影響は小さいのではないかと考えた。全体の蜜量推移に大きな差はなく、開花期間も近いものであったので、サギソウは蜜の再吸収をワセリンを塗った環境下では行っており、ワセリンの影響も少ないことからサギソウの蜜が減少する開花期間中盤以降には常に蜜の再吸収を行うのではないかと考えた。

6. まとめ

サギソウはワセリンを塗った環境下では蜜の再吸収を行っており、ワセリンを塗っていない場合においても再吸収を行う可能性がある

引用文献

- 1) 阿部航大ら.(2021).「サギソウの蜜の再吸収について」.まほろばサイエンスフェスティバル 2021(研究発表).12.
- 2) JOAO M. R. B. V. AGUIAR, LUPMILA M. PAN SARIN, JAMES. D. ACKERMAN, EMERSON R. PANSARIN (2011) Does *Oeceoclades maculate* (Orchidaceae) reabsorb nectar? *European Journal of Environmental Sciences*, 3(2),pp.113-118.